

南足柄市立南足柄小学校

研究テーマ：Outgoing～他者と豊かに関わり、自ら学び続ける人を育てる～

1 実践の目的

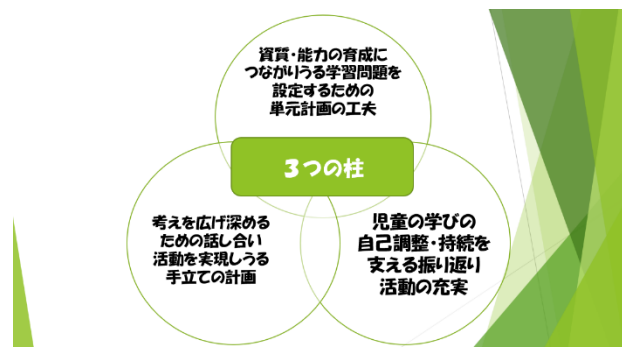
学習指導要領では、児童が将来、急速に変化する社会の中で活躍できるように、学校では、様々な変化に向き合う、他者と協働して課題を解決する、様々な情報を見極める、状況の変化の中で目的を再構築する力を育成することが求められていると記されている。しかし、本校では受け身で授業に参加している児童の姿も見られるため、「Outgoing」という研究テーマを設定し、「児童が自ら発信していく姿」や「他者と協働して課題を解決する」という点に重きをおいて研究を進めている。また、サブテーマにあるように、他者と豊かに関わり自ら学び続ける姿をめざすことで、本市のめざす「夢と希望を持って、粘り強く自分の道を切り開く子ども」像に迫っていきたい。

2 実践の内容

(1) テーマ実現のための研究の柱の設定

研究テーマを実現するために、3本の柱を設定した。昨年までは「資質・能力の育成につながる学習問題を設定するための単元計画の工夫」「児童の学びの自己調整・持続を支える振り返り活動の充実」の2本の柱で研究を進めてきた。そこに、今年度は3本目の柱として「考えを広げ深めるための話し合い活動を実現しうる手立ての計画」を加えた。この柱は、授業の展開の部分、友達と考えを共有する話し合いの場面に関わってくる。共有の場面は単なる発表会ではなく、一人ひとりの良い点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わせさり、より

よい学びを生み出していくようにすることが大切である。昨年度まで柱として設定はしていなかったが、教師は目標を達成するために様々な手立てを考えていた。しかし、それが教師の経験値や感覚によって左右される部分もあった。柱として設定することで、めざす児童の姿を実現するための教師の指導という視点を常に意識できるようにしたいと考え、新たに加えることにした。また、指導案には指導者の考え（工夫や意図など）を示した。そうすることで、参観者が研究の柱を意識して授業を参観することができ、授業後の協議についても研究の柱に沿って深められるようにした。



(2) 積極的な「KJM」の実践

本校では「KJM（気軽に 授業を 見合いましょう）」を合言葉に、教師がいつでも授業を参観し合えるようにしている。本校

の授業のスタンダードを共有したり、放課後には授業について話題にし、互いの教材観を高めたりすることで、校内全体の授業力向上につなげたいと考えた。そこで、毎日目にする職員室内に校内研究掲示板を設置した。この掲示板には、研究テーマや研究の柱を掲示する他に、「KJM」宣伝コーナーを設置し、積極的に授業を公開する雰囲気づくりに努め、校内の授業力向上を図っている。また、研究授業は学年1本の提案だが、全員が必ず1回は事前にアナウンスをして授業を公開するようにしている。

(3) 全国学力・学習状況調査等の結果を踏まえた研修会の実施

全国学力・学習状況調査やみなみステップアップテストの結果をもとに、全職員を対象とした研修会を1学期末に行った。本校の児童の課題として特徴の見られた設問を複数取り上げ、正答するために必要な力や指導の工夫について話し合った。学習内容の系統性を考えることの重要性や、調査を児童の学力の一つの指標として指導法の工夫・改善をしていくことに大きな意味があることを全職員で共有することができた。

3 実践の成果と課題

育てたい児童の姿に直結した研究の柱を設定したことは、授業を共有する視点が具体的になるという点で深まりのある研究協議につながった。また、児童が自ら学習問題を設定できるようにするための単元計画の工夫という視点を1本目の柱に設定することで、どんな導入をして課題づくりをしたかという事実から授業について議論することができた。研究を進める中で、児童と教材の出会い方や、初発の感想から学習問題を設定するための話し合いの工夫など、単元の導入部分を大切にして授業改善をして

いくという意識が職員の中で広がった。2本目の柱については、目標を達成させるために、「発問」「話し合いの形態」「板書」「掲示物の活用」「叙述に戻る」など、手立てや工夫を指導案に明記するようにしている。そうすることで、授業者だけでなく参観者も参観の視点がより明確になり、研究協議でも具体的な話し合いにつながった。3つ目の柱である振り返りについては、児童の振り返りという事実を根拠に学びを評価し、授業改善につなげることができるようになりたいと考えて研究を進めている。実際に、児童の振り返りをもとに、児童の到達度を評価し、授業改善や個別の支援に活かす実践があった。また、児童自身が自分の振り返りを次の学習に生かそうとしたり、自分の到達度を確かめたりする姿も見られた。このことは、南足柄市学びづくり研究に関する実態調査(4月・12月実施)においても、学習した内容を次の学習につなげていると回答した児童が増加していることから見てとれる。また、普段から学習の振り返りをしていることで、書く力も身に付いていると考えられる。

4 今後の展開

今年度新たな研究の柱を加えたことで、授業の展開の部分が充実してきた。しかし、児童が「友達と学ぶことは楽しい」と感じられるような授業にしていくなめには更なる研究が必要だと感じている。また、教師にとっても「チームで研究することは楽しい」と感じられるような場であることが校内研究の意義であると考えられる。校内研究が有意義な場となり日々の授業研究の楽しさを感じるきっかけとなるような校内研究をめざし、研究の進め方を工夫して実践していきたい。